

県民総参加の県政を推進

「県政ひざづめ談議」 をスタートしました！！



県政ひざづめ談議 in 甲州市 山梨のワイン産業を盛り上げるために

甲州市では、ワイン醸造業者、ワインの原料となる甲州種ブドウ栽培農家の皆さんと、「ワイン産地山梨を確立させるための取り組み」をテーマに開催しました。

日本固有のワイン用品種として世界的にも注目を浴びている甲州種のブドウを使い生産された良質の甲州ワイン。歴史の始まりは明治時代までさかのぼります。先人たちの伝統を現在も引き継いでいる皆さんから建設的なご意見が出されました。

原産地呼称制度の確立

県産ブドウを100%使用した高品質で安全なワインであることを保証することにより、県産ワインのブランド力を高めていく仕組みとして、原産地呼称制度を確立することが大切であり、今の消費者のニーズにも合っている。

後継者の不足

今、最も心配していることは、農家の後継者不足。五年、十年先には遊休農地がでてくる心配がある。ブドウを育てる人とワインを造る人が一体とならなければ、良質なワインはできない。甲州種を未来に残すためにも後継者育成が必要である。

技術職員の海外派遣研修を

高品質のブドウ栽培には海外の情



会場となったワイン資料館に展示された醸造器具など

乾杯にはワインを

報も非常に大事であるため、技術職員の海外派遣研修も行っしてほしい。

さまざまな酒席で乾杯にワインを使うことにより、県民に県産ブドウとワインへの理解を深めていただきたい。県民がワインに親しむことで、観光客に対しても県産ワインの話ができるなど、おもてなしの心につながっていく。



甲州種ブドウ畑

ワイン文化のさらなる発信

山梨県のワインは百年以上の歴史を持っている。ワイン文化に関する資料も多い。県民の宝として山梨のワイン文化をさらに発信していきたい。

和食に合うワインの特性は、食文化の中にとけ込んでい

談議の中では、「今日の知事さんのネクタイはワイン色ですが、偶然ですか」という質問が飛び出し、会場が笑いに包まれる場面もありました。知事は、「大いに啓発され、得るところが多い会合でした。山梨が、有数のワイン産地と言われるように、県としても頑張っていきたいと思えます」と感想を述べました。



参加者の中央に置かれた自慢のワイン

県では、県民の皆さんと知事が、ひざを交えてシナリオのない対話を行う「県政ひざづめ談議」を4月からスタートしました。県民の皆さんのご意見・ご要望などを知事が直接お聞きし、県政に反映させることを目的に、20~30名のグループと年20回程度、各地域に合ったテーマで意見交換を行います。

「県政ひざづめ談議」での対話内容は、広聴広報課のホームページで公開します。

<http://www.pref.yamanashi.jp/barrier/html/koucho/>





県民の皆さまと県庁をつなぐ直通便 「県政クイックアンサー制度」 が始まりました!!

県へのご意見やご要望にスピーディーにお答えします

いただいたご意見やご要望は、私が必ず拝見します。

県では、県民の皆さんからのご意見やご要望に一週間でお答えする「県政クイックアンサー制度」を開始しました。県の仕事に対して日ごろ感じていることや、ご要望、アイデアなどをお気軽にお寄せください。担当する部署が責任を持って、速やかにお答えします。



ご利用方法

県ホームページの「県政クイックアンサー」送信フォームに記入して送信してください。

県ホームページ <http://www.pref.yamanashi.jp>

県の施設や市町村役場、農協など県内312カ所の県政ポストに設置してある「県政クイックアンサー」専用用紙を用いて、郵送またはファックスで送付してください。

回答について

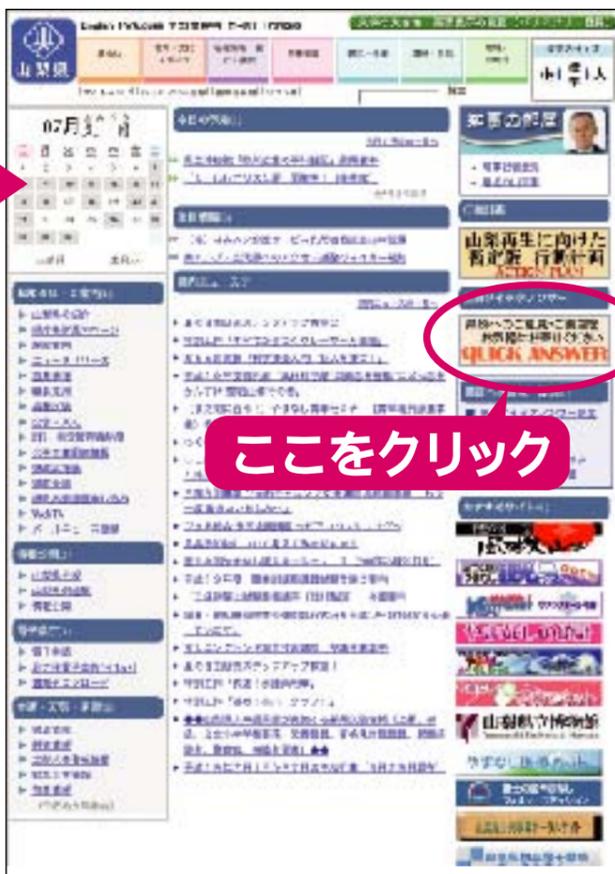
ご意見やご要望などを受け付けた日の翌日から、一週間（5開庁日）以内に回答を送信・投函します。担当する部署が責任をもってお答えします。いただいたご意見などは、知事がすべてに目を通します。

活用方法など

県庁内で情報を共有し、県政運営の参考とします。ご意見やご要望などの一部とその回答をホームページで公表します。（氏名・住所などは公表しません。）個人情報は、「山梨県個人情報保護条例」に基づき適正に管理します。

注意事項

差出人の氏名、連絡先が不明な場合、また営業活動、ひぼう中傷などの場合は回答できません。



ここをクリック

県ホームページ「県政クイックアンサー」のパナーをクリックしてください。

「県政ひざづめ談議」「県政クイックアンサー制度」：知事政策室広聴広報課 TEL 055-223-1336



県政ひざづめ談議 in 甲斐市 地域全体で子育てを支援していくために

甲斐市では、子育て中のお母さんや子育て支援に携わる皆さんと「地域における子育て力」をテーマに開催しました。地域全体で子育てを支援していく力をより強いものにするためにはどうすればいいのか、また何が必要かについて実際の経験に基づく多くの意見が出されました。

ファミリーサポートセンターを全市町村に

育児支援を望む母親（依頼会員）が子どもを預かることができる家庭（協力会員）に一時的な保育を依頼するファミリーサポートセンターは、その家庭の事情にあった利用の仕方を選択できる点でとてもいい制度だと思う。国や県の援助を受けながら、全市町村で早くスタートさせてほしい。

市から援助が出てとても助かるが、長時間預けると高額になってしまつて。依頼会員は協力会員を三人程度の中から選ぶことができる。また



下校時に子どもを見守る老人クラブの方々

依頼会員と協力会員で合同で話す機会もある。

頼れる児童館

児童館で、同じくらいの子どもを持つお母さんと知り合いになれた。色々相談し、心配事も解決できるので、とてもありがたい。

子どもの見守り

今、子どもを巻き込んだ事件が多いが、子どもの下校時に老人クラブの方々が見守っていてくださるので、とても安心だ。

小児初期救急医療センターの充実

小児初期救急医療センターが、一力所しなく、子どもの具合が悪い時に車を運転していくのが大変だった。県内に



小児初期救急医療センターのある甲府市医療福祉会館

数力所あると助かる医療費助成制度の統一
市町村ごとにまちまちな医療費の助成を県内全域で統一してほしい。
* * *
談議は、知事自身が進行役をこなし、和やかな雰囲気の中で進められました。知事は「ファミリーサポートセンターや児童館、母親クラブ、幼児教室などが立派に役割を果たしています。これをさらにPRしながら、発展させていけば、いい姿になっていくと思います。これから若い夫婦が安心して子育てできる山梨にしていきます」と意気込みを語りました。



談議終了後、子どもを抱く横内知事